

クラブ員各位

新宮ライフセービングクラブ 代表

**平成 26 年度事業計画及び平成 25 年度評価、修正について（通知）**

上記標題について別紙のとおり事業計画を作成し、併せて事業結果を評価し、修正方向を示します。クラブ員の皆様においてはこの旨周知し、年間を通して次年度へ繋がる円滑な活動をお願いします。

なお、平成 26 年度から運営新体制を始動し、心機一転、更なる発展を目指していきたいと考えています。

各項目に対して各委員会を主導として、担当者は主体的に実行し、各計画の達成にご協力をお願いします。

本事業計画は、現時点における計画を立てることにより計画的活動を行う目的で作成する主旨であり、当該年度内の新たな計画・活動を妨げるものではありません。

# 平成26年度 新宮ライフセービングクラブ 事業計画

## 基本方針

- ・ 新宮海岸重溺事故の5年連続ゼロ更新
- ・ 運営体制の変革
- ・ 増員・システム化・高度化による体制強化
- ・ より広域な活動

## 1. パトロール・練習等の環境向上

- ① Rチューブ・レシーバの増強 ⇒ 購入(～7月)
- ② パトロール本部の導入 ⇒ H27年度導入へ向けて検討・検証・交渉
- ③ 平日パトロールの増加 ⇒ より早期に設置、電源検討(～10月)
- ④ 資器材リストの本格運用 ⇒ 資器材リストのWEB活用(通年)

## 2. 活動費・資器材購入費のための資金調達

- ① 新宮町助成金 ⇒ 事業計画書・申請書等の提出、実績報告等の提出(年度末)
- ② 竹製寄付金箱の設置・回収 ⇒ 竹製寄付金箱を50事業所へ設置・翌年1月回収(～1月)
- ③ 事業収入の増大 ⇒ まつり新宮・ガード依頼等

## 3. 運営体制の向上

- ① 運営体制の変革 ⇒ 理事会・委員会制度の導入
- ② 規約改正 ⇒ NPO法人を意識し、将来対応可能な規約
- ③ 総会の実施 ⇒ 総会を実施

## 4. 人材の確保・育成

- ① 新規メンバーの確保 ⇒ 運営基盤を強固にし、早々に方策検討
- ② 広報の拡充 ⇒ マスコミ・ポスター・WEBサイト・SNS・TV等による広報
- ③ より広域な活動 ⇒ 関東など他地域での活動へ触れてより広い視野と見解を得る
- ④ JLA資格取得者の拡充 ⇒ 新宮ベーシックの開催(5月)、アドバンス・審判員等の他資格推進
- ⑥ 参加率の向上 ⇒ 新規メンバーフォロー、連絡体制強化、WEBによる情報共有・提供

## 5. 年間行事計画

- 4月 総会、海練・プール練、会計・監査、新宮町クリーン作戦、新宮町活動助成金申請
- 5月 海練・プール練、クラブ内講習会、全日本プール選手権(横浜)、ベーシック講習会(新宮)、ガタリンピック
- 6月 海練・プール練、全日本種目別選手権(千葉県)
- 7月 パトロール、結成会
- 8月 パトロール
- 9月 海練・プール練、慰労会、パトロール統計
- 10月 海練・プール練、全日本地区予選(和歌山)、全日本LS選手権(神奈川)、九州LS選手権(宮崎)、CSin 島根
- 11月 海練・プール練、まつり新宮、ママチャリWGP 秋
- 12月 プール練、忘年会
- 1月 初詣、プール練、新年会、活動統計、寄付金箱回収
- 2月 プール練
- 3月 海練・プール練、JLA 会員更新、決算・予算、ママチャリWGP 春

# 平成25年度 事業についての評価及び修正

## ・ 寄付金箱事業

平成 23 年にメンバーからの発案によって、平成 24 年から新宮浜近郊事業所へ寄付金箱を設置した。初年の平成 24 年は 21 事業所へ設置させていただき、¥21,767 の寄付金を得た。平均¥1,037、最高¥3,085、最低¥0 の結果であった。

設置事業所や地元住民からの金銭的支援も然ることながら、広報効果も大きいと思慮される。地元新宮にライフセービングクラブがあるという存在の広報、ボランティア活動で資金枯渇状況の広報効果は数字では表せないが大きな効果を感じるところであり、今後も効果が期待される。

よって、今後も当該事業を拡張することは金銭的及び広報的に有効である。しかし反面、寄付金箱の作成や寄付金箱収集、寄付金集計、WEB 掲載、金額結果貼付などの作業は煩雑であり、より省力化が望まれる。

## ・ 救助資器材の増強

新宮町まちづくり自主活動支援事業助成金により R ボード 1 本とボードスタンド 3 本、バックボード 1 式を配備し、JLA 救助器材支援事業により R ボード 1 本と R チューブ 1 本を配備した。

R ボードの増強により、配置パターンに自由度が広がり、複数での同時練習やパトロール中の練習も可能となった。最低本数はようやく揃った印象であるが、更なる段階的な増強が望ましい。

また、R チューブの増強はまだ満足できる本数には程遠く、見かねた有志が個人購入して対応している状況である。現有は 5 本であるが、総数 20 本程度の早急な大幅増強が望まれる。

ボードスタンド 3 本増強については、R ボード保護の観点から一定の効果を感じるところである。しかし、使用方法を周知できておらず有効に使用できていない実態もあり、更なる増強が望まれるが、使用方法周知などソフト面での対応も必要である。

バックボードの増強については幸い必要となる事案こそ起こらなかったが、高度な知識と技術が必要とされ、使用方法とその意味を十分にメンバーへ周知する必要がある。また他地域の浜ではバックボードはあるものの老朽化が進み、有効に機能するか疑問であるものも見受けられるため、他の資器材と比較して、より丁寧に、より多くの訓練を実施し、より効果的に使用できるよう改善が望まれる。

## ・ スポーツ安全皆加入

平成 25 年度から、従来 JLA 付帯個人賠償責任保険のみの加入であったが、スポーツ安全保険の加入によって傷害保険等の加入を一括登録した。保険金支払対象と思われる事案は、平成 25 年度 1 件のみであったが、本人意思により支払い請求していない。

今後は、本人意思に関わらず、積極的に保険を利用していくことが望まれる。そのため、保険担当者を選任し、被保険者が容易に申請できる環境を整えることが急務である。

## ・ 専門学校・スポーツクラブ等への勧誘

各プールやスポーツクラブ、救命士関係専門学校などへポスターの掲示を依頼し、約 30 事業所へメンバー勧誘ポスターを掲出したが、未だ効果はゼロである。理由や原因は不明であるが、労力対効果が芳しくないため当該事業は廃止するべきである。今後は他方面に視野を広げて、更なる効果的な勧誘や広報が望まれる。

## ・ 参加率向上

平成 25 年度は、メンバーの参加率向上を目標に活動し、平成 24 年 5.75 人/日から平成 25 年 6.99 人/日へと 1.24 ポイント増の結果となった。

しかし実感として参加意欲が向上している実感はなく、更なる「参加したい」「行きたい」「何かをやりたい」クラブへ変革する必要性を感じる。

そのため、クラブの環境や雰囲気や否定思考や指導思考ではなく、賞賛思考へと変えていく必要がある。元来、ボランティアは使命感ややりがいを求めて集う集団である。組織化や使命感も必要であるが、この原点を忘れずにメンバー教育の徹底を図るべきである。

また、平成 25 年度メンバーで平成 26 年度メンバーに更新しなかったのは、33 名中 12 名であり、そのうち 9 名は平成元年から平成 7 年生まれの 19~25 歳の有望な若者たちである。

年数を重ねていく上で主要メンバーの高齢化が進むのは世の常であるが、積極的に若年層を取り込むことで、組織の若返りを目指し、若者の参加意欲を向上させるクラブを目指すことが望まれる。

## ・ 九産大 LSC との関係性

九産大 LSC 発足当初は、設立を支援し、全面的に譲歩して活動協力してきたが、パトロールやクラブ運営のあり方を考察すると限界が近づいているのは明白であり、何かしらの線引きが必要である時期である。

方策はこれから検討していくべきであるが、若者のライフセービング活動の場は保護しつつ、円滑なクラブ運営が望まれる。